

### 23. 化学療法の治療効果判定にガリウムシンチグラフィが有用であった Rhabdomyosarcoma の1例

久米 典彦 小池 晋司 高野 勝之  
西垣内一哉 菅 一能 松永 尚文  
(山口大・放)

われわれは、小児横紋筋肉腫をガリウムシンチグラフィにて経過観察した一症例を経験したので報告した。患者は13歳の女性で、主訴は左前胸部痛である。治療前のガリウムシンチで、左胸部に集積を認めた。化学療法4クール施行後のガリウムシンチでも左胸部に集積を認めたが、その程度は減少していた。胸部CTおよび切除後の標本において腫瘍の縮小および内部の壊死がみられた。

今回われわれが経験した横紋筋肉腫では、ガリウムシンチグラフィは診断および治療効果判定に有用であると考えられた。

### 24. $^{99m}\text{Tc}$ -2-methoxyisobutyl isonitrile (MIBI) シンチグラフィによる平滑筋肉腫の放射線治療および化学療法の治療効果の評価：MRI との比較

玉田 勉 大塚 信昭 白井 博志  
亀井 健 宗盛 修 今井 茂樹  
平塚 純一 今城 吉成 梶原 康正  
福永 仁夫 (川崎医大・放)

放射線治療および化学療法により治療した頸部平滑筋肉腫例の治療効果の評価を  $^{99m}\text{Tc}$ -MIBI シンチグラフィで行った。

$^{99m}\text{Tc}$ -2-methoxyisobutyl isonitrile (MIBI) シンチグラフィにおける腫瘍への集積を半定量した指標と MRI 所見の変化を治療前後で比較した。 $^{99m}\text{Tc}$ -MIBI の集積は臨床症状を良好に反映し、 $^{99m}\text{Tc}$ -MIBI シンチグラフィは治療に対する腫瘍の反応性を客観的に評価しうる手段であることが示された。

### 25. 頭頸部悪性腫瘍における $^{67}\text{Ga}$ SPECT の有用性

西山 佳宏 川崎 幸子 佐々木真弓  
高島 均 田邊 正忠 (香川医大・放)  
細川 敦之 (住友別子病院・放)  
薄井 順子 (香川県立中央病院・放)

頭頸部悪性腫瘍44例に  $^{67}\text{Ga}$  シンチグラフィを施行し、SLIM 群(悪性リンパ腫、悪性黒色腫)と非 SLIM 群に分け  $^{67}\text{Ga}$  SPECT の有用性を検討した。SLIM 群の planar 像での描出率は 85.0%、非 SLIM 群の描出率は 45.8% であった。SLIM 群の SPECT 像での描出率は 90.0%、非 SLIM 群の描出率は 75.0% であった。planar 像で生理的集積部位との鑑別が困難な上咽頭癌などでは SPECT を追加することで、病巣の検出率の向上が認められた。SPECT は CT などと相補的に検査することで局在診断のみならず、病巣の活性度や範囲をとらえることができ有用と考える。

### 26. 甲状腺癌の転移性病変の $^{131}\text{I}$ 治療と血中サイログロブリン値との関連

刈谷 真爾 吉村 尚子 福本 光孝  
耕崎 志乃 吉田 祥二 (高知医大・放)  
赤木 直樹 (同・放部)

甲状腺全摘後  $^{131}\text{I}$  治療を受けた甲状腺癌患者13例について血中サイログロブリン値と  $^{131}\text{I}$  治療後の全身スキャンとの関係を見たところ、血中サイログロブリン値が異常値を示した11例中10例に全身スキャンで転移巣に集積が見られた。血中サイログロブリン値が異常値を示すものは、 $^{131}\text{I}$  診断量投与での全身スキャンで集積の有無を確認することなく  $^{131}\text{I}$  治療を行ってよいと考えられた。また、血中サイログロブリン値にかかわらず、血中甲状腺ホルモン値が低い症例では  $^{131}\text{I}$  治療が有効であった。一方、血中サイログロブリン値と血中甲状腺ホルモン値が共に高い症例では、 $^{131}\text{I}$  治療はほとんど効果的でなかった。